

「希望がある」

2015年09月22日

安倍首相は日銀総裁にお友達の黒田東彦氏を就任させた。日銀は時の政府とは距離を置く自主的な政策をする組織であったが、政府と日銀は一体となって、株価上昇と円安に導いた。二倍以上に上がった株価に企業、株の投資家は大きな利益を上げた。この「アベノミクス」が安倍政権の支持率を高め、何をしても、少ししか下がらない状態が続いている。NHK会長に「政府が右と言うことを左とは言えない」という舛井勝人氏を就任させた。NHKの報道は公正さを無くしていると言わざるを得ない。安倍首相は民放のニュースキャスターやコメンテーターを食事に招き、反対させないように懐柔している。自民党の良心であった憲法審査会の会長に憲法改定論者の柳本拓治氏を据え、安保法案は合憲と言い変えている。教育においては、2006年に教育基本法を改定し「我が国と郷土を愛する」という文言を入れ、学校行事で「君が代」の斉唱を強制している。最近は、人文社会科学系をないがしろにする施策を進め、若者から思考、批判など、考える力を奪うような状況を作り出そうとしている。権力は支配権を巧みに広げ、安保法案を成立させた。

10年前、9人の文化人が「九条の会」を立ち上げ、憲法を守ろうと呼びかけた。呼びかけに応え、全国に7,500もの「九条を守る会」が生まれた。九条の会は地域に根ざした「草の根」の活動を展開している。私は三つの「九条の会」の世話人になり、活動している。街頭でのスピーチの時、「私たちの活動は特定政党の政治運動ではありません。また、私たちは特定組織に動員された者でもありません。一人の市民として、九条を守り、日本の平和を堅持し、世界に九条の平和思想を発信したいと願っている者です」と語りかけている。九条の会は個々人が自主的に参加している会である。

安保法案反対運動は九条の会の地道な働きが根っこにあったと思う。集会やデモには個人参加が多かった。殊に、シールズ（自由と民主主義のための学生緊急行動）が誕生してからは新しい展開を見せた。中心メンバーの奥田愛基氏が国会の公聴会で国会議員に呼びかけた公述は圧巻だった。「最後に私からのお願いだ。シールズの一員ではなく個人としての、一人の人間としてのお願いだ。どうか、どうか政治家の先生たちも個人でいてください。政治家である前に、派閥に属する前に、グループに属する前に、たった一人の個であってください。自分の信じる正しさに向かい、勇気を出して孤独に思考し、判断し、行動してください。皆さんには一人一人考える力がある。権利がある。政治家になった動機は人それぞれ、さまざまあるだろうが、政治家とはどうあるべきかを考え、この国の民の意見を聞いてください。勇気を振り絞り、ある種、賭けかもしれない、あなたにしかできない、その尊い行動をとってください。日本国憲法はそれを保障し、何より、日本国に生きる民一人一人、そして私はそのことを支持します。困難な時代にこそ希望があることを信じて、私は自由で民主的な社会を望み、この安全保障関連法案に反対します。」

若者たちは眠っていたかのようにであったが、政治に関心をもち、自分の思想を自分の言葉でみずみずしく語っている。「市民主義」を提唱した哲学者・久野収氏は、自立した市民によって民主主義が形成されると繰り返し語っていた。自立した者は真の連帯ができる。自立しない群れは支配と服従の関係でしかない。自立した市民になることによって、国民主権は生きたものとなる。安倍首相の顔色を見て、群れる政治家たちに明日の日本は任せられない。奥田氏は「孤独に思考して判断して行動する。それだけですよ」と言う。自分の言葉を持ち、主体的に行動する市民が戦争に引きずり込む「安保法」を廃棄していく。そこに希望がある。